

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100297		
法人名	株式会社ヴィーヴル		
事業所名	グループハウスあい		
所在地	熊本市田迎1丁目7-20		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	平成22年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=4390100297&SCD=3200
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成21年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者の皆様お一人お一人の人格を尊重し、「家族」として大切にし、それぞれのペースにあわせてその人らしい暮らしが継続できるよう、日々のサービスに取り組んでいる。
 ・ご利用者とスタッフが支えあって生活することを常に考えながら、毎日を安全に、安心して楽しく過ごせるよう努めている。
 ・ご利用者の健康管理に充分注意し、早い対応ができる様努めている。また、重度化や終末期における介護、看取りについてもご家族や主治医との話し合いを充分に行いながら積極的に対応していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の静かな佇まいながら、少し足を運べば大型ショッピングセンターやレストランが並び、穏やかな暮らしの中に適度な喧嘩が感じられる好条件に立地している。瀟洒な建物の中に入ると、職員の心のこもった飾り付けが見られ、明るく温かい雰囲気漂っている。代表者、管理者が看護師であり、協力医との連携を密に行い、日々の健康管理や口腔ケアに熱心に取り組んでいる。医療依存度の高い人や看取りケアにも、訪問看護と協力し、信頼できる看護・介護が提供されている。母体組織は様々な介護関連の事業部を有し、組織全体で感染防止・改善・教育・防災の各委員会を設置し、サービスの質の向上に努めており、家族アンケートでも満足度の高い結果が得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4項目の理念の1つに地域密着型サービスの意義を踏まえたものがあり、毎朝始業時に、全員で唱和し意識付けを行っている。また、3か月に1回ミーティングにおいて理念の意味を確認しながら、日々のサービスの実践につなげている。	定期的に、全職員で理念を掘り下げる機会を設け、日々の介護に反映させている。同時に理念の見直しを行い、開設以来の「家庭的な暮らし、入居者一人ひとりの生き方を大切に」という旨に「地域に密着した暮らし」を盛り込むなど、社会のニーズに対応した積極的な取り組みが見られた。ケアの様子や笑顔の写真からも、理念に沿った介護の実践に努力されていることが感じ取れた。	理念の文言を、具体的な分かりやすい表現に変えることを考慮中であり、話し合いの過程で職員の意識が一層深まり、上質なサービスが提供されることが期待できる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加させていただいたり、定期的に行われている清掃作業に、スタッフが必ず参加している。また、2か月に1回の近くのピアノ教室からの訪問を継続し、入居者と子供たちとの交流を行っている。	地域の行事や集いに積極的に参加し、交流を深める努力が続けられている。ホーム建設の時点から、近隣への心配りがあり、隣家とは暖かい支援が得られる関係が築かれている。気軽に立ち寄ってもらえるホームを目指し、町内の苦役に参加、ふれあいサロンへの協力を続けており、徐々に理解者が増えてきている。	来年度は隣接のデイサービスと合同で、ミニヴィーヴル祭を開催予定であり、地域住民を招いて交流を図ることで、ホームへの理解が広がると思われる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生き生きサロンで、支援者として年に1回担当し、認知症予防の体操やレクリエーションを地域の高齢者の方々に提供している。また、社全体での地域貢献として、地域の方々の交流の場になるような催し物を来年に向けて計画 중이다。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的実施し、入居者の状況・活動内容・入退居状況・医療連携状況等の報告を行っている。社協長さん民生委員さん方との意見交換や、地域の情報提供をしていただき、サービス向上に努めている。	会議には、社協長、民生委員、協力医、地域包括支援センター、保健所等の参加があり、情報交換が行われている。民生委員を通して消防団への協力を依頼したり、地域の高齢者の情報から、介護支援に取り組んだ事例もあり、会議がホーム運営に活用されている。また、毎回、医療や介護等の勉強会を組み入れており、参加者の楽しみになっている。	自治会や老人会等にも参加の呼びかけを継続して行い、支援の輪が更に広がることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談支援員の訪問を月に1回受け入れし、市との連携として活用している。また、事故報告を速やかに行い、運営上の疑問点や相談などは、その都度、市の担当者の方と連絡を取り協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護相談員の訪問は、ゆっくりと話を聴いてもらえ、入居者に喜ばれている。相談員からの報告は入居者の思いを知る手段の1つと捉え、ケアに活かしている。地域包括支援センター主体で、管内の地域密着型サービス5事業所の連絡会が始動間近であり、情報交換や研修に参加、協力し、サービスの質の向上に取り組んでいく意向が確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内での勉強会を行い、スタッフ全員が身体拘束について正しく理解し共通認識を持って日々のケアを行うよう努めている。安全確保のためにセンサーを設置し、玄関は施錠せず自由な暮らしを支援している。	外部・内部研修を定期に実施、職員の意識付けが行われている。身体拘束は無論のこと、言葉による拘束もケアの中での具体例を挙げ、指導に努めている。施錠や行動制限は無く、入居者は伸び伸びと暮らせており、玄関のセンサーと細やかな見守りで安全確保を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年社内での勉強会を行い、スタッフ全員で学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。事業所内でも身体的虐待だけでなくケア全体を通して虐待が起こらないよう、チェック表を使って自己のケアの見直しを行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内での勉強会で予定されており(11月)、スタッフ全員で参加する予定。現在、制度の利用が必要な利用者はおられないが、必要性に応じて、制度の活用ができるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族を中心に十分な説明を行っている。報酬加算や料金改定についての説明も個別に行い理解・納得を図った。重度化や看とり、医療連携体制についての十分な説明と話し合いを重ねてケアを行っていく方針である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内への意見箱の設置、年1回ご家族へのアンケート調査、2~3か月に1回の家族会からの意見を運営に反映させるよう努めている。また、クレーム報告書による是正処置を講じる仕組みがある。	改善委員会が主体となって、家族アンケートを毎年実施。家族会や訪問時にはコミュニケーションを深め、意見を引き出すよう努めている。これまで、職員の名札や食事内容等の要望に、速やかな対応が見られており、意見・要望を尊重し、サービス向上につなげていく姿勢が感じ取れた。	家族会への参加が減少傾向にある為、年に1回は全家族が集う機会を企画検討中である。家族間の交流が深まり、互いの意見交換も活発になると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで、運営に関する話し合いを持ち、スタッフの意見や提案を出してもらっている。また、個人面談を行いスタッフの意見を直接聞く機会を持ち、年間のチーム目標・行動計画に取り入れている。	組織全体で、感染事故対策・改善・教育・防災の各委員会が設置されており、各事業部門から職員が出席、検討する仕組みが作られている。ホーム内では、年2回の個人面談、毎月のミーティングで意見を募るなど、職員参加による運営が進められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月業務日報を確認しスタッフ個々の状況の把握に努めている。人事考課表、個人面談により勤務状況や実績により給与・賞与への配慮ありスタッフが向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の教育委員会により、スタッフの能力に応じた教育(新人研修、リーダー研修等)がある。また、事業所内で年間の教育計画を立て、働きながら、技術や知識を身に付けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市のグループホーム連絡会、地域包括支援センター圏内の地域密着型事業所に定期的に参加し、他事業所との交流を図ったり情報交換に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人との面談を行い、生活に対する要望や困っていることについてじっくりと話を聞き受け止めるよう努めている。相談受付時にできるだけご本人にも見学に来ていただき好まれる環境なども把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず面談を行い、ご家族の生活に対する要望や困っていること・不安などをよく聞き、受け止めるよう努めている。ご本人とご家族との思いの違いやご家族が求めているものを理解し、受けとめるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、また担当ケアマネージャーからの情報により、必要なサービスを見極めている。体験入居の期間を設けたり、法人内デイサービスを利用させていただくなどして、徐々に馴染みながら安心して過ごしていただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの得意分野での家事や季節行事を一緒に行い共に支えあいながら過ごしている。習字の得意な方に、食事のメニューや掲示物を書いてもらうなど力を発揮してもらい、お互いに感謝する気持ちを持って過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を2～3か月に1回開催し、ご本人が快適に過ごせるよう話し合いながら共に支えあう関係を築いている。衣替えや寝具の入れ替えを協力してもらったり、年2回の野外活動に参加していただくなどして、家族の役割を持っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御親戚やご近所の方、古くからのご友人の面会やお電話などを積極的に受け入れて馴染みの関係が途切れないよう支援している。	家族や友人等のつながりが断たれないよう協力を呼びかけており、家族の訪問が多く、友人等の訪問も時折見られている。女学校時代の友人が訪問されると、普段表情が乏しい人も生き生きとおしゃべりされるなど、良い影響が得られている。東京在住の家族は頻回の訪問は困難だが、ほぼ毎日電話があり、手紙やプレゼントが届けられている。	入居者から電話や手紙を送ることが少ないことから、現在、本人直筆の年賀状作りに取り組んでいる。今後も機会を捉えて、入居者の便りを支援されることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や外出時のグループ分けなどに配慮しており、利用者同士の関係をスタッフが把握し気分の変化に注意しながら、良い関係が保てるよう支援している。利用者同士の支えあう場面も日々見られ、見守りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された場合もご家族の相談にのったり、して、継続的な関わりを持ちながら支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を導入し、御家族にも協力して頂きながらそれぞれの利用者について担当スタッフが記入し、情報共有ができるようにしている。ケアカンファレンス時に新しい情報があれば報告し、利用者の意向の把握に努めている。	認知症の特性に適したアセスメントツールを検討した結果、センター方式による情報収集を行っている。症状のみに囚われず、全人的に入居者を捉え、心理面の理解に努めている。アセスメント項目を確認する過程で、職員の気づきが深められ、言葉で表わされない思いも、汲み取ることができつつある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の担当ケアマネージャーからの情報や御家族とのお話、また、センター方式シートに直接御家族に記入して頂くなどして、利用者個々の生活歴・経過等の把握ができる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者お一人おひとりの1日の暮らしの流れを把握し、ご本人のリズムで日々を過ごせるよう支援している。センター方式のD1・D2シートの記入により、日々の暮らしの中でできる力、わかる力を細かく把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人と家族の要望・意向を確認し、週1回のケアカンファレンスで担当者を中心に情報交換を行いながら検討している。利用者の要望や状況に応じて、介護計画の見直しを行うようにしている。	入居者毎の担当職員が中心となってアセスメントを行い、ケアカンファレンスで話し合い、管理者が介護計画を立案。日々のケース記録は、介護計画に沿った記入方法を考案し、モニタリングに活用している。家族の訪問時に計画を説明、要望を聴き取っており、職員・家族の協力の下、微細な変化にも即した介護計画が作成されている。	担当職員が計画立案できるよう教育を深めていく方針であるが、加えてケース記録の書き方も指導されると、職員の洞察力、分析力が高まり、よりの確な介護計画が作成されると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に、利用者の状況やスタッフの対応を介護計画に沿って記入する様式にし、その都度介護計画の評価や見直しを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のデイサービスを利用してリハビリを行ったり、医療支援が必要時には訪問看護を利用するなどして必要なサービスが受けられ、柔軟な支援ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で、社協長や民生委員からの地域行事の情報頂いたり、地域行事に参加をさせてもらったりしている。また、地域のピアノ教室の子供達の発表の場として提供し、利用者の皆様と一緒に音楽を楽しんだりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から月2回定期的往診と、希望される方にはかかりつけ医の往診を受けられるよう支援している。また、内科以外で受診が必要な場合はご家族の協力を得て、主治医とも相談しながら必要な診療科への受診を支援している。	本人・家族の要望に沿ってかかりつけ医を決定。受診には原則家族が付き添っており、ホームでの様子は文書で情報提供されている。急変時には夜間、休日でも往診してもらえるなど、協力医との連携が築かれており、医療依存度の高い入居者への対応も可能となっている。歯科との連携も密に行われ、定期の口腔チェック、随時の往診が実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置あり、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、訪問看護ステーションとの連携もとり、医療処置を受けながら生活が継続できるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、利用者の生活状況の情報提供を行い、安心して療養できるよう努めている。面会時に病院関係者から状況を聞いたり対応の方法を伝えるなど情報交換を密に行うように努めている。また、できるだけ早期に退院できるよう家族・医療機関と相談、支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応、終末期の支援について、利用者・家族・主治医・ホームの意向を文書で示し、家族会でも話し合う機会をもちながら、支援を行っている。スタッフ間ではミーティングやカンファレンスで話し合う機会を持ち、勉強会を行い、チーム全体で取り組めるよう努めている。	本人・家族の希望に沿い、看取りに対応する方針。これまでも看取りの事例があり、揺れ動く家族の心情に配慮して、病状変化に応じた話し合いや、意思確認が行なわれている。協力医、訪問看護との協力体制が整っており、看取り手順書も整備。職員教育に熱心に取り組み、職員の意思統一を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内での合同研修会や事業所内での勉強会で、急変時や事故発生時の対応についての知識・技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火・防災委員会を中心に、避難誘導がスムーズに行えるよう、社内での合同非難訓練を年4回行っている。運営推進委員会で訓練時の状況・反省点などを報告し、地域の人々の協力を得られるよう働きかけを行っている。	防災委員会を中心に、組織全体で熱心に取り組んでいる。年4回の合同避難訓練では、職員配置が異なる昼間と夕方、夜間を想定して、1回はホームを出火場所とした実施が行われている。また、消防署立ち会いの訓練と指導も受けている。災害時には地域の協力が不可欠なことから、運営推進会議で協力を依頼している。	隣家の協力は得られているが、周辺住民の協力体制はこれからと思われる。具体的な協力内容を示し、住民参加が得られやすい日時に訓練日を設定するなど、根気よく呼びかけていくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としてお一人お一人を尊重し、言葉遣いに気をつけている。排泄や入浴の介助を行う際にはプライバシーの確保を徹底し、言葉かけやケアのおこない方に注意している。	採用時に尊厳に関する教育を必ず実施。日々の介護場面で言葉づかいや対応方法を具体的に指導している。入浴介助や排泄介助では羞恥心に配慮し、プライドを傷つけないよう努めている。	言葉のニュアンスや、声のボリュームに配慮が必要と思われる。また、職員間で気づいたことを検討する場を設けるなど、改善に向けて一層の努力を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服の更衣時にご本人に選んでもらったり、おやつ時の飲み物を幾つかの種類の中から好みのものを選んでもらうなど、必ずご本人の意思を確認し、自己決定できるように働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事の時間など、ご本人の生活歴やその日の体調にあわせて、お一人お一人の生活ペースに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族の希望を聞きながら支援を行っている。ご本人にあったヘアクリームを使ったり、外出時にはご本人と一緒に選んだ服を着ていただいたりして、おしゃれを楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は手作りし、昼食と夕食は配食サービスを利用し、盛り付けや配膳を利用者と職員で一緒に行っている。また、週1回昼食を協働で料理し、同じ食卓を囲んで食事を楽しんでいる。	入居者が調理を手伝う機会は少ないが、魚の骨取りや配膳を手伝う姿が見られ、食事の準備に参加してもらうよう努力されていることが伺えた。配食サービス業者には、嗜好や咀嚼能力等を伝え、入居者に適したメニューを要望している。週1回の手作り昼食のメニューは、入居者と話し合っ決めて、一緒に調理し、楽しい食事会になっている。	職員は弁当持参のため、共に同じ食事を囲み、会話を楽しむまでには至っていない。また、配膳時の待ち時間の短縮など、工夫の必要性が感じられた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食摂取量・水分摂取量を毎日個別に記録し、状態が把握できるようにしている。利用者の栄養状態や嚥下状態に応じて、刻み食やミキサー食などの形態にしたり、箸の長さやスプーンの形を考慮して、自分で食べられるような工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後と就寝前に、歯磨きや義歯の洗浄を行い口腔内の清潔が保てるようにしている。週に1回歯科衛生士による訪問指導を受け、個々に合ったケアの指導やアドバイスを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを利用してそれぞれの排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導を行っている。パット類も個々の能力や状況に応じた選択をしている。車いすの方もできるだけトイレで気持ちよく排泄ができるよう、誘導・介助を行っている。	一人ひとりの排尿パターンを把握し、早めの声かけで失禁防止に努め、自立を促している。夜間は眠りを妨げないよう、吸収量の多い尿取りパットを使用。日中は活動しやすい小さなパットに変え、細やかなトイレ誘導で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を出来るだけ多くすること、朝食時にヨーグルトを摂取していただく、サツマイモや寒天を使ったおやつを食べていただくことを毎日行っている。また、健康体操や散歩などで体を動かすことで自然排便を促すことに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めず、利用者の状況や希望に沿って入浴の支援を行っている。一人ずつお湯は入れ替えていつも気持ちよく入浴ができるようにしている。	入居者の希望に沿い、いつでも入浴できる対応も考えられている。体力が低下している人は2日置きにするなど、健康状態を考えて調整。入浴を嫌がる人には、機嫌の良い時に声かけするなど、タイミングを得た誘導で、清潔保持に努めている。	浴槽は3面からの介助が可能な作りになっているが、出入りが困難な人が増えてきている。入浴を楽しんでもらうためには、入居者・職員共に負担の少ない方法を検討されるとよいと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、ご本人の希望に応じて就寝の援助を行っている。利用者の状況によっては、日中に休息の時間も設けて疲労感がなく過ごせるように支援している。就寝前にホットミルクを飲んでいただき、安眠につながるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服されている薬の情報について、個人記録に閉じ込み、いつでも確認できるようにしている。本人の状態の経過や変化については、看護師より主治医へ報告し、病状に合わせて服薬調整ができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を参考にしたり、能力に応じて家事での役割分担ができるようにし、それぞれが得意分野で能力が発揮でき、役割を持った生活を支援している。また、外出や地域行事への参加など希望を聞いて、楽しみのある生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所の公園までの散歩や、お地藏さん参りにいったり、近くのドラッグストアに買い物に出かけている。また、時にはドライブに行ったり、ご家族と一緒に外出を楽しまれることもある。	重度化が進み、外出が困難な状況の中で、近隣の散歩や買い物など、日々の外出支援が行われている。また、年2回は家族と共に全員で外出する機会を設け、花見やレストランでの食事を楽しまれている。絆を深めることはもとより、本人・家族の気分転換にとドライブ等を呼びかけており、入居者と一緒に外出される家族も多く見られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金はホームで管理し、利用者本人は所持していない。今後、財布にお小遣い程度のお金を持っていただき、スタッフと一緒に買い物に行った際に、ご本人の希望に応じて買い物をしていただくような支援ができればと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内に公衆電話を設置しており、ご家族やご友人からの電話や手紙はいつでも受けられるようにしている。今後、ご本人からのお手紙を送るという支援ができるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビング掲示板や居室のネームプレートに季節ごとに飾り付けをしたり、写真を貼るなどして季節を感じて頂くようになっている。また、テーブルにクロスや椅子カバーで、家庭的な雰囲気の中で安心して居心地よく過ごせる様努めている。	間取りや構造等にこだわり、心とむ作りになっている。リビングの角には一人でのんびりできるスペースがあり、窓外には隣家の畑が広がり、シャクヤクや菖蒲、季節折々の野菜の成長を楽しむことができる。家族からプレゼントされたエレトーンは、音楽教室の子供達との交流に活躍。クリスマス雰囲気が漂う飾り付けは、職員のアイデア満載で、入居者に喜んでもらいたいという思いが伝わってきた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを多く設置し、気の合う利用者同士で楽しくおしゃべりしたりテレビを楽しんだりする場所がある。リビングの片隅に一人で外の景色を眺められる空間があり、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ今まで使い慣れたタンスなどの家具や仏壇などを持ってきていたり、家族の写真を飾るなどして、その人らしく過ごせる様にしている。	それぞれに馴染みの箆笥や仏壇等が置かれ、人形いっぱい居室、家族写真に包まれた居室など、温かい雰囲気の部屋が多く、家族への働きかけの成果と思われる。ドアのネームプレートには季節毎の飾り付け、室内には職員手作りの写真立てや小物、長寿を喜ぶ傘寿、喜寿の賞状が飾ってあり、居心地良い部屋作りへの努力が感じ取れた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札で名前の表示をしている。居室の場所がわかられない方には、大きな造花を飾って目印にしている。身体機能により居室に手すりを装着したり、ポータブルトイレの設置をするなど個々の状況に合わせた環境づくりをしている。		